

寺田縄子ども育成会 「<sup>まがたま</sup>勾玉づくり」 (平成29年11月11日実施)

会場：平塚市埋蔵文化財事務所



今日は、土曜日、<sup>きゅうじつしゅつぎん</sup>休日出勤の菅原さん、<sup>なかじま</sup>中嶋さんが<sup>しどう</sup>指導してくださいました。<sup>じゅこうじどう</sup>受講児童の<sup>あいさつ</sup>挨拶で<sup>たの</sup>楽しみな<sup>かいし</sup>勾玉づくりが開始されました。



中嶋さんから<sup>はなし</sup>勾玉の話<sup>き</sup>を聴きました。



菅沼さんから、勾玉を中心とした<sup>くびかぎ</sup>首飾り<sup>みほん</sup>見本<sup>しめ</sup>が示され、  
作るイメージがわかりました。



勾玉の見本、作り方が  
<sup>しめ</sup>示されています。



これが勾玉です。



1 2色の粘土が並べられています。  
少し硬めでしたが、手のひらにのせてもみもみすると軟らかくなり、  
色を混ぜ合わせることができます。



こちらは滑石の作り方見本です。  
長方形のピース表面に勾玉の形を描き、そこまでやすりで削ります。  
⑦が完成形です。長方形の滑石から、勾玉が誕生します。



粘土か滑石かは、自分の<sup>せんたく</sup>選択で決めます。



菅沼さんから滑石製の<sup>おそ</sup>勾玉の作り方を教わりました。

滑石組が、作業を始めました。形を整えるのに力を入れ、真剣に紙やすりを動かし、滑石を動かします。



削りかすの白い山が出来ました。力を入れる指先が疲れて痛くなるほどでした。



こちらは粘土組です。色粘土を練り合わせ、ビーズのような粘土玉、管玉。  
勾玉は中心より上の方に穴をあけ、ひもを通します。



作られた勾玉、ビーズ玉などはオーブンで30分焼かれます。  
最後の作業は糸を通し、首飾りになります。

